

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	7	実施計画番号	17
事務事業名	予約式乗合タクシーの運行		事業開始年度 平成21年度
担当課名	政策財政課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	道路運送法	関連事務事業	
背景や経緯等	乗客数の減少により平成21年9月末で路線バスの一部路線が運休することになり、地域住民の公共交通手段を確保する必要性が生じた		
事務事業の目的	利用状況やニーズに合わせて地域住民の公共交通手段を確保する		
実施状況	平成21年10月～平成22年9月 実験運行(道路運送法第21条に基づく運行) 平成22年10月～ 本格運行(道路運送法第4条に基づく運行)		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)	5,757	5,690	6,130
うち一般財源	5,757	5,690	6,130
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	0	0	0

【指標】

活動指標	活動指標名①		予約式乗合タクシーの1日当たり運行本数			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	実績値		便/日	9.0	8.6	8.5
	活動指標名②		予約式乗合タクシーの1便当たり利用者数			
	計算式等		単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画
	実績値		人/便	1.9	1.9	1.9
成果指標	成果指標名①		予約式乗合タクシーの月当たり利用者数			
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
	実績値	人/月	目標値	370	370	370
			実績値	352	332	
			達成度(%)	95%	90%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
			目標値			
実績値						
達成度(%)						

十和田市事務事業評価シート

整理No	7
計画No	17

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 路線バスが運休している地域を対象に、地域住民の公共交通手段を確保するため、予約式乗合タクシーを運行しており、市民ニーズは十分にある。 また、予約式乗合タクシーの運行事業を行っている十和田市地域公共交通会議を補助する仕組みであることから民間との競合はない。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 成果指標(月当たり利用者数)は減少傾向にあるが、路線別で比較すると増加している路線もある。 運行時間帯や停留所などについては、利用状況や利用者の意見等を参考にしながら、改善する余地がある。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 予約式乗合タクシーの実際の運行状況に応じて運賃収入との差額を補助する仕組みとしており、可能な限り効率的な運営に取り組んでいる。 また、実際の運行に当たっては、ノウハウを持っている市内の民間タクシー事業者に委託している。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 路線バスが運休している区間の沿線住民を対象に予約式乗合タクシーを運行しており、受益の偏りはない。 また、利用者からは従前の路線バス料金に準じた乗車料金を徴収しており、受益者負担は適切である。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
					現在の適性	19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由	地域住民の交通手段の確保という観点から、持続可能な予約式乗合タクシーの運行を確保する
今後の具体的な取組方策と狙う効果	利用実績や利用者ニーズ等を踏まえて、運行形態等を見直しを行うことで、利用者の増加と効率的な事業遂行を図る